



摺子

摺子

ロング・スリーパー

私は眠り 夢へと還っていく

どれ程悪意に満ちた夢であろうとも
現実ではない分心は休まる

目覚めないかもしれないと言う不安
期待を込めた 不安
そのまま死に逝くとしても
眠りにつく事を後悔などしない

あなたも一緒に眠りましょう
長い 長い 夢の中へ還りましょう



カゴの中の鳥

羽を切られてどこへも行けない

それでも足掻いて
逃げ出した

空は目の前にあるのに
羽ばたけない

諦めることを知らない鳥
空へ 空へ

願いも虚しく

生き絶えた

大丈夫、だよ

隠して感じなくなってしまった感情

取り戻せる日は来るから

大丈夫

あなたは生きているから

人形なんかではないから

泣き喚いても

落ち込んでも

何も感じなくなってしまうても

あなたはそこに居る

それだけで救われている人が居る

今は生きている実感すらないかもしれない

死ぬ事を選ぼうとしているかもしれない

けれど

あなたが居なくなって悲しむ人を忘れないで

たったひとりでも存在している

後ろ向きでも良い

何も出来ていないと感じていても良い

永遠に続くかのような苦しみを感じて

あなたは 生きている

思考暴走

身体が冷たくなっていく

心が覚めて

誰にも出会えない世界

一人泣いて何も出来ないから

自分の事だけで精一杯

心が歪んでいくのを止められない

意識が蝕まれていく感覚

それ以外何も感じるなど

中の意思が訴えかけている

何をしても薬が入れば無感動で

一番楽な筈なのに

虚無感から逃れられない

美しい色はどこに行けばある

それを見る事が出来ない

ざわざわと煩い言葉たちも

きっと別の角度から見れば美しい

このまま冷たさが加速して

死へと向かって

覚めた心は戻ってこない

やめて

やめてやめてやめてやめてやめて

ねえ、今どうしてあなたは

あんな大ゲンカも何時か思い返せば
些細な笑い話に出来る事で
私はあなたと作っていく未来にしか
興味無かったから

大切に折りたたみ過ぎていた感情も
本当は張り裂けそうな程
痛んでいたこの潰れた胸すらも

「大丈夫だ」って言ってくれた時は
安らぎを得られていたの

ねえ、今どうしてあなたは 私に背中を向けようとしているの
ねえ、今どうしてあなたは 私以外の人へ行こうとしているの

傍に居てよ 離れないでよ

もう会う事もないなんて
さらりと言えちゃうあなたが嫌い
嘘でも嫌いと思いたい

ここに居てよ 見捨てないでよ

そう縋った夜ももう遠く
あなたからの着信を待ち続けた携帯は
記憶の底へ沈もうとしてる

まだ好きだよ あなたが良いよ

そう思った事は本当だから
今だってずっと待ってる事伝えたいから
私はここに縋っていくの

ねえ、今どうしてあなたは



見上げれば青い空しか見えない
さよなら

今まで通り過ぎて行った人たち
これから通り過ぎるであろう人たち

腕に刻み込んだ音と、
心に刻み込んだ色も、
もう大丈夫だよと歌っている。

こんな日をずっと夢視てた。

全ての人たちが忘れても 私はずっと、覚えているよ。

眠りの質

疲れる為に眠るなんて嫌だ
眠りや夢ってもっとこう、
幸せで心地よいものであってほしい。

こんなもんじゃないんだ。
こんなもんじゃないんだ。

夢の中には好きな人が居て、
夢の中には大好きなものがあって、
夢の中には安心感があって、

夢の中には……

現実より辛い事なんて無いんだ。
幸せになりたいから眠るんだ。

もっと現実が酷いものになれば、
夢の中でだって幸せになれるかな。

もっともっと

引き裂いて
引き裂いて 引き裂いて

SOS SOS

SOS SOS

現在時刻 pm18:07

心の中を漂流中

誰の姿も見当たりません。

SOS SOS

現在時刻 am01:15

心の中を捜索中

必要なものは見当たりません。

SOS SOS

生存者は私一名

何時か来る救助を

待ち続けます。

SOS SOS

たった一人で

SOS SOS

広い世界で

SOS SOS

信号を打ちながら

SOS SOS

待ち続けます。

失恋

愛を示すために書いたものたちも、

それ自体なくさざるを得ない状態になってしまえば

ただただ

虚しいものでしかないのだ。

孤独

ぼくは 自由だ

だれも ひつようと しないからだ

意思の欠片

両手を広げて 助けを求める姿に

影はなく 救いもなく

雪が降り積もる

何も無い場所に

墓がひとつと 意思の欠片が

積もった雪に 隠されていく

欠片は表面を支配する

ひとつ ひとつがその場を誤魔化し

墓は己を無くしていく

何かを求める余り私は消え

全ては強すぎる力となった

涙は薄れ 血が流れる

悪夢の連鎖

壊れていく人たちの中で
ようやく生きている私

愛情を求めて少しずつ
行き場を失っていく

同類嫌悪 吐き気がするよ
昔のことなんて見せないで

悪夢に追われ
必死で逃げている

また 叫んで目覚めるんだ

私も 壊れていく

未知

ひとつの命が、あっけなく終わる。

今まで見てこなかった風景を
今まで発しないでいた言葉を
今まで聞こうとしなかった声を

今まで何もしなかった僕を
殺して。

もう
我侭なんて言ったりしないから。

密閉空間にて

声をあげても ただひとり
しずんでいく 自分の中
だれも居なく 泣き続け
かすかに見える 助けすら
信じられず ふりはらう

全てのものが どうでも良く
それでも一つ 求めてる
警告など おかまいなし
耳をふさぎ やりすごす

自分で呟く 言葉すら
意味も掴めず 首かしげ
呼ぶ名前だけ 記憶を辿る

目的すら 見失い
あてもなく 笑いかける
存在自体 あやうくて

うずくまって 閉じこもる



薄ぼんやりとした部屋の中で

私は孤独を思い出す

独りじゃなかったときなんて

あったらどうか

今はそれすら分からない

私へ

吸った気にもなれない煙草を
今日も吸います。

このまま身体が壊れてしまえば
きっと私はすんなり旅立てる。

タオルで首絞めて何か得られた？
死ぬつもりで薬飲んで何が変わった？

生きていたいと、思ったんです。

その内何とかなる、なんて
自分のことじゃないから言えるんでしょう。

洗剤飲んで何か得られた？
生きたいと歌って何が変わった？

何にもだ。

あんた、嫌い。

おすそ分け

誰か 私の傷を 見て
みんな 私の傷を 見て

傷付けば良い
悲しめば良い
苦しめば

良い

私の 代わりに

問いかけ

あなたは 何処で 止まっています か

赤い月

赤い光を 憎悪と称え

私は何時でも

何時までも

現実逃避を続けていくのです。

ガラスに映った姿は

とても あやふや

不確かなものを求める私も

全てが あやふや

赤い月に 眠る私。

あとがき

はじめまして、この本を見てくださってありがとうございます。
作成者の指守と申します。

この度は初の詩集を出して見ようと言うことで...
サイトにはない書き下ろしも沢山書きました。
もし気に入っていただけたらとても嬉しいです。

このロング・スリーパー、私自身は「暗黒編」
と呼んでおります。
次は恋愛編でも出せたら良いなー。

その時はまたよろしく申し上げます。
あなたに出会えた事に最大限の感謝。

それでは、おやすみなさい、良い夢を。

写真・イラスト・文章：指守 要

サイトurl：<http://karaitoma.web.fc2.com/>

ロング・スリーパー

<http://p.booklog.jp/book/75259>

著者：指守 要

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/karaitoma/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/75259>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/75259>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ